

令和 6 年 4 月 19 日

教 育 長 様

(※受付番号)

研究コース
A グループ研究 A
校舎コード (代表者校舎の市費コード)
522031

代表者	校 園 名 :	大阪市立桜宮中学校
	校舎長名 :	向 井 秀 俊
	電 話 :	06-6921-6934
	事務職員名 :	櫛 谷 葵
申請者	校 園 名 :	大阪市立桜宮中学校
	職名・名前 :	英語科教諭 田 中 美 恵
	電 話 :	06-6921-6934

令和 6 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	全員参加型オールイングリッシュの授業実現に向けて ～「英語脳」、「英語耳」、「英語口」づくり～			
3	研究目的	テーマに合致した目的を項立てして記載してください。 1. インプット促進活動により、オールイングリッシュの授業での理解促進を図る。 (1) 多読マラソン：長文を読むことで英語に長時間触れるスタミナをつけ、英語の処理速度を高める。また、付随的語彙学習により語彙力を向上させ、「英語脳」づくりを目指す。 (2) ストーリータイム：C-Netの絵本読み聞かせを通して読み聞かせの手法を学び、読み聞かせ大会を開催する。英語特有のリズムを身に着けることで、「英語耳」「英語口」づくりを目指す。 2. 国際交流を含めたアウトプット促進活動により、オールイングリッシュの授業における生徒間の英語でのやり取り活性化を図り、世界の共通語として英語を学ぶ重要性を認識させる。 (1) 国際交流 (Web・対面)、(2) 文通、(3) 英会話カードゲーム 3. 教員の技能向上により、オールイングリッシュの授業をやりやすくする。 (1) 英語教員とC-Netの交流機会を増やすことにより、教員の英会話力向上を図る。 (2) 米国政府助成金プログラムの奨学生として、大学院レベルの英語教育学の授業を受講する (1名)。			
4	研究内容	(1) 研究内容の詳細 ※継続研究 2 年目以降は 1 年目の記載をコピーして貼付する <現状と課題> 新学習指導要領に沿って、本校でも英語の授業をオールイングリッシュでと目標にしているが、課題が多い。英語が得意な生徒は楽しんで英語力が更に向上するが、苦手意識が強い生徒は拒絶反応を示したり、英語特有の発音が理解できず、悲鳴を上げる。そこで、オールイングリッシュの環境をできるだけ全員が楽しむことができるよう、「英語脳」づくりをテーマとした研究活動を行っていく。 <研究の内容詳細> 基礎力向上のための普段の単語・文法学習などの意図的学習に加え、多様な付随的学習の機会をインプット・アウトプット共にバランスよく提供し、オールイングリッシュ授業に対応できる、「英語脳」「英語耳」「英語口」づくりを目指す。本校では数年前から、入試に対応できる力だけではなく、実践的英語力を身に付けさせることを目標とし、スピーキングやライティング活動を意欲的に行ってきた。過去3年間は、国際交流活動を通して生きた英語に触れる機会を豊富に提供し、世界市民の育成をテーマとした研究も行った。英検に挑戦する生徒も多く、チャレンジテストやGTECなどの結果も良好だが、オールイングリッシュの授業が思うようにいかず、本年度こそ成功させたいと英語科全教員が強く望んでいる。特に英語に苦手意識を持つ生徒が、多読・多聴活動やストーリータイムにより語彙力や英語処理速度を高め、英語で話す機会を増やし、オールイングリッシュの授業を楽しめる環境づくりを目指す。また、教員が海外の大学院レベルの英語教授法を学び、最新理論や実践を研究に反映させる。 <研究の汎用性、継続性など> オールイングリッシュの授業への全生徒の参加、語彙力・英会話力・長文読解力向上は、恐らく多くの英語教員の今の悩みではないだろうか。その成功に向けて研究を進めることで、他校の先生方の参考に少しでもなれば嬉しいと思う。			
		(2) 継続研究 [2 年目] ※継続研究 3 年目の場合は、2 年目の記載をコピーして貼付する 【前年度の成果】 多読図書や英会話を楽しめるようになり、オールイングリッシュの授業への抵抗が少なくなった。結果、英検受験者が増え、チャレンジテストなどでも大阪市平均点を大幅に超えた。 【前年度の課題】 (1) 多読図書活用者増加に伴い、冊数が不足。(2) 全学年で多様な交流を実現するため、新規交流先や交流方法の開拓必要。(3) スピーチ活動を活性化する取り組みも必要。 【本年度の取り組み】 前年度の活動に加えて下記を実施し、本研究の本格的な展開実現を目指す。 1. 英語耳・口づくり：洋書追加購入、全教室CDプレーヤー・大型タイマー設置 (スピーチ大会実施) 2. 英語脳づくり：国際交流先の新規開拓、カルチャーボックス交流、C-Netとの文通や自由会話導入 3. 教員の技能向上：昨年度のテンブル大学などでの学びを活かし、本校英語科内で勉強会を実施			
		(3) 継続研究 [3 年目]			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p><2024年：1学期></p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科内で研究の経緯を確認後、研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等を検討 ・現行の国際交流先との打合せ、国際交流先の新規開拓（2学期交流開始目標） ・C-Netとの文通活動・フリートーク開始（以降継続） ・Book Review活動開始（以降継続） ・授業内多読マラソン開始（以降継続） ・英語科教員勉強会開始（以降継続） ・ニュージーランドの子ども達と小グループ国際交流実施（以降継続） <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Book Reportポスター作成 ・多読活動経験がある他校教員との交流 <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話カードゲーム大会 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ大会 <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本多読学会参加（オンライン予定） <p><2学期></p> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Oxford Big Read(英語多読用書籍読書感想ポスターコンテスト)参加 ・小中学校作品コンクール(3分英語スピーチ)応募 ・大阪市長杯中学校英語暗唱大会参加 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭で国際交流や多読ポスターの掲示発表 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による国際理解教育授業実施(体験型交流、Thank You Card作成) <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業・研究発表会実施 ・教員・生徒への事後アンケート実施・分析・結果考察
		出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <div> <input checked="" type="checkbox"/> 変更しない。 <div>理由 経年にわたって、成果を検証するため</div> <input type="checkbox"/> 変更する。 </div>
		<p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <div> <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 </div> <p>テンプル大学ジャパンキャンパス大学院教育学研究科の授業受講やその内容の共有により、最新の英語教授法に関する教員の知識並びに指導力の向上が期待される。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で2.8を目指す。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <div> <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 </div> <p>英語教員とC-Netの交流機会を増やすことや、国際交流活動や多読活動を通して、教員の外国・異文化に関する知識や、英語力の向上が期待される。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で2.8を目指す。</p>

6	見込まれる 成果とその 検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>多読マラソンを通して、生徒の長文読解力・語彙力・英語処理速度が向上し、英語を日本語に訳さずに英語のまま理解することが容易になる（「英語脳」づくり）。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による生徒アンケートを実施し、関連項目で2.8を目ざす。</p>						
		<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>ストーリータイム活動を通して、生徒が英語特有のリズムを身に付けることで、英語特有の発音を理解し（「英語耳」づくり）、自分でも英語らしい発音ができるようになる（「英語口」づくり）。また、国際交流活動などのアウトプット活動を通して、世界の共通語として英語を学ぶ重要性を生徒が認識することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>4段階による生徒アンケートを実施し、関連項目で2.8を目ざす。</p>						
7	研究成果の 共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和7年2月21日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 6 年 12 月 9 日</td><td>場所</td><td>大阪市立桜宮中学校</td></tr></table> <p>◆waku^{x2}.com－bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 6 年 2 月 15 日</td></tr></table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 6 年 12 月 9 日	場所	大阪市立桜宮中学校	日程	令和 6 年 2 月 15 日
日程	令和 6 年 12 月 9 日	場所	大阪市立桜宮中学校					
日程	令和 6 年 2 月 15 日							
8	代表校園長の コメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>グローバル化が著しいこれからの日本を担う子どもたちにとって、英語力向上は最も大切な要素であると考え。しかしながら、単にテストで高得点をとれることが英語力が高いとは言えない。国際社会で力を発揮し生き抜くためには、世界の共通語である英語でコミュニケーションが取れる力が必要である。英語で相手の考えを深く理解し、自らの思いをしっかりと相手に伝える力が求められる。そのためには本校英語科が目ざす、英語を日本語に訳すのではなく英語のまま理解する力こそが重要であろう。本校での研究が実を結び、本校生徒はもとより全市の英語力が向上することを確信している。大阪市の子どもたちのために、是非とも研究の機会を与えていただきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度の実践は素晴らしいものであったと思う。子どもたちが生き生きと海外の子どもたちとインターネットで交流する様子を見て、片言の英語やパネルを使うことにより、十分に国際交流が成り立っていることが分かった。何よりも海外への関心が高まり、もっと英語が使えるようになりたいと子どもたち自身が考えている状況を嬉しく思っている。また、そのような取り組みが英語力の向上にも大きくあらわれており、英検をはじめとするいろいろなテストにおいて他校に比較して非常に高い成績を残している。今年度も取り組みを継続することにより、さらなる成果を発揮してくれるものと期待している。□</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						